令和2年度 特別支援学校寄贈物品　使用状況報告書 【1年目】

Ｐ　Ｔ　Ａ名	静岡県立浜松視覚特別支援学校ＰＴＡ
学　校　名	静岡県立浜松視覚特別支援学校 ☑視覚障害　☐聴覚障害　☐知的障害　☐肢体不自由　☐病弱
設　置　部	☑幼稚部　☑小学部　☑中学部　☑高等部
全校児童・生徒数	35人

1. 使用状況

寄贈物品名	ゴールボールゴール
使用学年及び人数	中学部生徒1人、高等部普通科生徒11人、 高等部専攻科（インドアスポーツ部所属生徒）4人　　計　16人
使用頻度	中学部、高等部普通科体育　9月～10月　全16時間 部活動　9月～11月　全8回
使用状況	体育では中学部、高等部普通科で、9月～10 月まで、ゴールボールを実施。週3回の授業でゴールを使用した。 部活動では、インドアスポーツ部で、11月に行われる東海地区ゴールボール大会に向けて、ゴールボールを実施。週2回の練習でゴールを使用した。また、授業、部活動だけでなく、卒業生などで組織する外部団体が施設利用で本校体育館を使用し、ゴールボールの練習を行うことがあり、その時に使用した。
物品の使用による変化や効果	以前は、ゴールボールの授業を行う際、教員の手作りによる簡易ゴールを使用して練習を行っていた。ゴールボールは視覚障害者の競技であるため、ゴールに体を当てて自分の位置を把握し投球することがあるが、、簡易ゴールでは体を当てることができなかった。公式のゴールを使用することで、より実践に近い練習を行うことができた。生徒のモチベーションも高まり、練習にも意欲的に取り組むことができた。
今後の活用の見通しや課題	本校の部活動では、ゴールボールとフロアバレーボールが体育館競技で盛んに取り組まれている。東海地区の大会も、その2競技が開催されている。公式ゴールを使用して、積極的に練習に取り組むことで、大会で上位入賞を目指していきたい。 また、授業でも積極的にゴールボールを取り組んで、競技の楽しさや魅力を感じることで、卒業後の生涯スポーツへの参加につなげていきたいと考えている。
その他 希望や所感など	障害者スポーツは競技人口が少ない為、道具や、器具の価格が非常に高価なものが多いです。サポートしていただき非常に助かっています。

2. 活用の様子

高等部普通科の体育の様子

ゴールを背にして、狙ったコースに投球する練習をしています。↑

3対3の試合形式の練習を行っています。↑

〈生徒の感想〉

・ゴールボールの練習をするときに、正式なゴールがあると、思い切って体をぶつけることができ、試合の時と同じように、練習できるのでとても練習になりました。

・簡易ゴールのときと比べて、本物のゴールがあることで、全然雰囲気が違い、ゴールボールをやっている感がすごく高くなった。